

# CPU の手引き

(PMS 資格者向け)



特定非営利活動法人  
日本プロジェクトマネジメント協会

## 〔目 次〕

1. 資格継続学習の解説	1
(1) 資格継続学習の狙い	1
(2) CPUポイントの取得	2
(3) 資格更新手続き	6
(4) CPU審査	7
(5) 長期間未申請の場合	8
2. CPU記録簿の作成(記入例)	9
(1) 申請者情報記入欄	11
(2) I. 実務活動 a 実務	12
(3) II. 自主研究 a 自主研究	17
(4) III. 普及・啓蒙・教育・訓練	21
ア. 書籍の著作	21
イ. テキストまたはジャーナルの著作	23
ウ. PM受賞	25
エ. 講師	26
オ. PM 団体活動(PMAJ、PMI、PM 学会等 PM 専門団体)	28
カ. その他関連業務等参加	30
(5) IV. 受講 a 受講	32
* 主なCPUポイント取得可能な研修、イベントの一覧(2019 年度)	37

# 1. 資格継続学習の解説

## (1) 資格継続学習の狙い

### CPU(Continuing Professional Development Unit)

#### PMS資格者の要件

◎P2Mプロフェッショナルとしての倫理要綱の順守

◎PMS資格者としての技能の維持向上

PMに関する知識レベルの維持、向上

PM分野の最新知識の習得

資格継続学習を行うことにより、要件を維持

CPUポイント : 継続学習の状況を定量的に把握

資格更新の条件: 3年間で規定以上のポイント取得

(48ポイント)

最初に、資格継続学習の狙いについて説明します。

PMS 資格者としての要件は何かといった場合、その取り組み姿勢というか精神的な面と技能の面の2つが考えられます。

精神的な面というのは、P2M プロフェッショナル倫理要綱としてPMAJのホームページに載っています。真心、信念、誠実であること、コンプライアンスを順守することなどが謳われています。これは、時代の変化によって多少変わるところがでてくるかもしれませんが、大きくは変わるものではありません。

技能の面ということでは、社会の複雑化とか技術革新の急速化といった環境変化を踏まえ常に最新のPM関連情報に接している必要があると考えます。

そこで、PMS 資格者はその技能を保証するための学習を継続しなければならないということになり、学習の実績を定量的に把握するためのCPUポイントという考え方を導入しました。

PMS 資格を更新するために必要な継続学習の基準として、3年間で48ポイント以上のCPU取得となっています。

## 1. (2) CPUポイントの取得

### ア. 継続学習の活動分野

実務活動	プロジェクトに従事した時間＋加算点	
自主研究	PMに関する研究論文・レポートの本数	
普及・ 啓蒙・ 教育訓練	書籍の著作	著作の編数
	テキスト・ジャーナル著作	著作の編数
	PM受賞	受賞回数
	講師	講師を実施した時間
	PM団体活動	活動に従事した月数
	その他	関連業務の件数
受講	PM関連セミナー等の受講時間	

~~~~~  
CPUポイントを取得するには、大きく分けて4つの活動分野があります。  
実務活動、自主研究、普及・啓蒙・教育訓練、受講です。

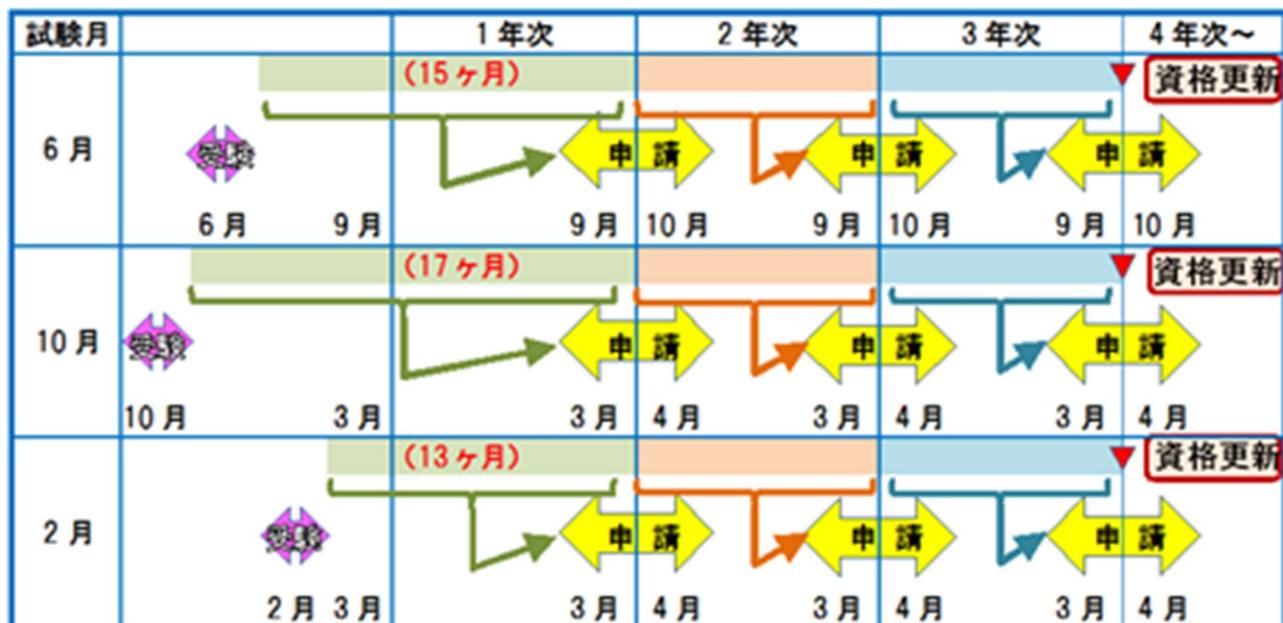
それぞれ、ポイントを計上するためのカウント単位が時間であったり、件数であったりと規定されています。

一見、複雑そうに見えますが、例えば実務活動は、プロジェクトに従事されている方には、仕事そのものであるとか、個々に見ればCPUポイントの取得が比較的容易な構成になっています。

CPU制度の目的は「PMS資格者としての技能の維持向上」ですが、実はP2M知識を活用して**実践力を向上**するところに、重点が置かれているということなのです。

# 1. (2) CPUポイントの取得

## イ. 申請対象期間



試験に合格した年月毎に、3年毎のPMS 資格更新年月が決まっています。

次頁に2019年度合格の方のケースを記入してみました。

# 1. (2) CPUポイントの取得

## イ. 申請対象期間



6月に合格された方の資格有効期限は、2022年9月末となります。

10月及び2月に合格された方は、2023年3月末です。

試験に合格後、資格認定登録を済まされた方は「PMS 資格認定証」をお持ちだと思いますが、「認定有効期限」をご確認ください。

3年後の有効期限まで、毎年、獲得したCPUポイントを申請します。

受験から最初の申請までの期間のみ、1年を超える設定となっています。

6月に合格された方は、15ヶ月後となる2020年の9月から10月にかけて、第1回目の申請を行っていただくこととなります。

10月に合格の方は17ヶ月後、2月の方は13ヶ月後の2021年3月から4月にかけて、第1回目の申請です。

2年次、3年次と続けて、CPUポイントを累計48ポイント以上申請して、資格更新手続きを行っていただくこととなります。

## 1. (2) CPUポイントの取得

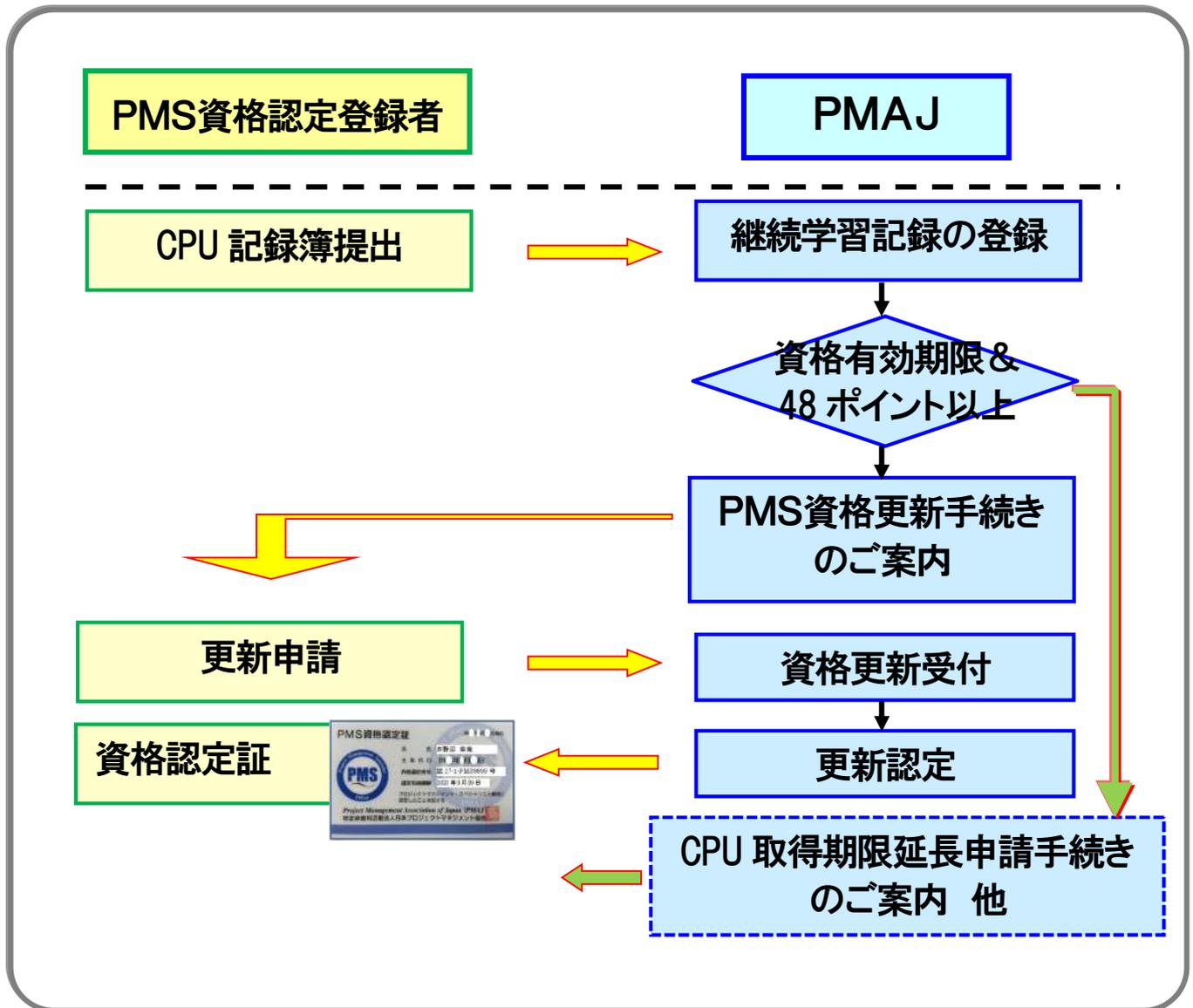
### イ. 申請対象期間



~~~~~  
いつ申請するか忘れてしまった場合、資格認定証の資格認定番号の「認」に続く3桁  
(上記であれば“19-1”)が分かれば、PMAJのホームページで調べることができます。

PMAJのHPのTOP画面 ⇒ P2M概要・試験・資格制度 ⇒ CPU申請 ⇒  
PMS CPU申請 ⇒ CPU申請時期

# 1. (3) 資格更新手続き



資格取得の3年後の資格更新手続きについて、説明します。

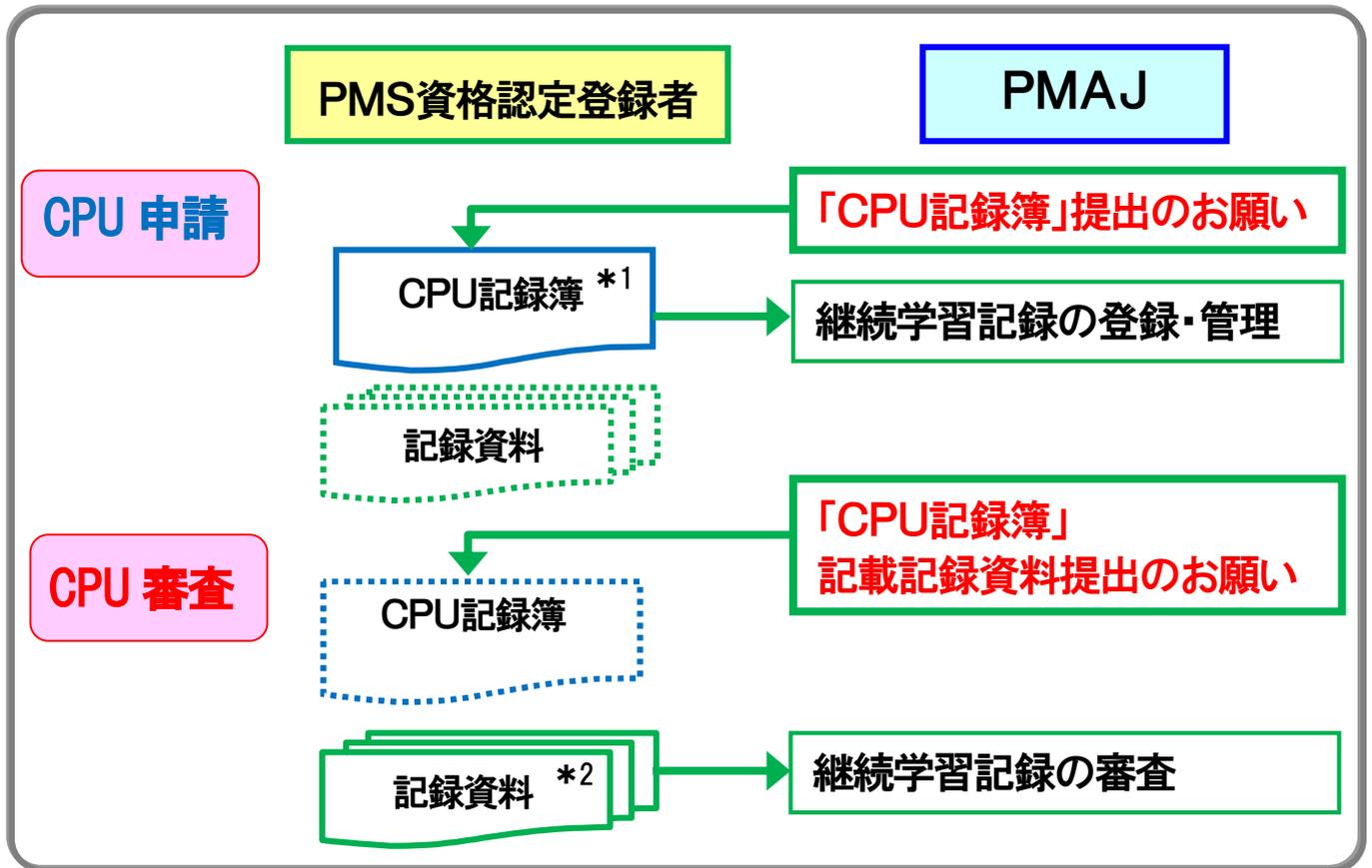
毎年、CPU記録簿を提出し、48ポイント以上になると、資格有効期限の前後に「PMS 資格更新手続きのご案内」というメールが届きます。

この案内に従って、メールの一部にある「PMS 資格更新申請書」欄に必要事項を記入して返信し、資格更新料を振り込むだけです。

1ヶ月以内に新しい資格認定証が届きます。

3年間で48ポイントに達しなかったら、延長申請の手続きが必要になりますが、そんな手続きをしなくてもすむように、これから説明するポイント申請をしっかりと実施していきましょう。

# 1. (4) CPU 審査



毎年のCPU申請は、CPU記録簿(EXCEL ファイル)の提出だけで、記録簿に記載した学習記録の証跡は保管しておきます。

事務局では、定期的に審査対象者を抽出して「『CPU記録簿』記載記録資料提出のお願い」メールを発信します。メールが届いたら、保管していた記録資料を提出し審査を受けることとなります。

- 審査対象となるのは、原則として前回資格更新日以降の記録資料です。
- 審査の結果、CPU 記録簿の訂正を要請されることがあります。

\* 1「CPU 記録簿」:P9~P10 を参照

\* 2「CPU 記録簿」記載資料(様式 A から D):P11 以降の記入例参照

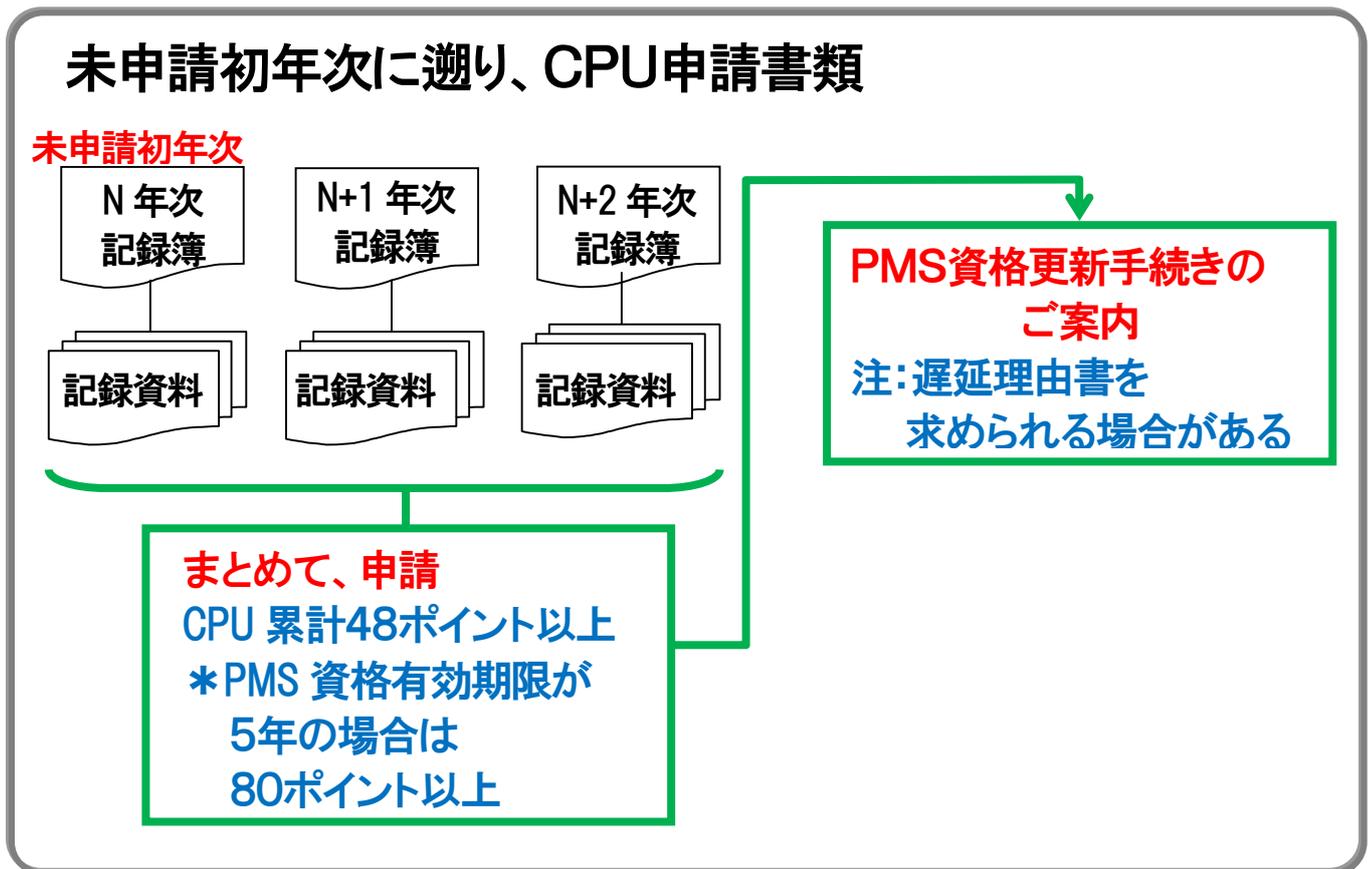
様式-A プロジェクト実務活動記録

様式-B プロジェクトマネジメント教育講師 実施記録

様式-C PM 団体活動記録

様式-D プロジェクトマネジメント講習会 受講記録

## 1. (5) 長期間未申請の場合



長期間未申請だったが、資格を更新したいという方は、中断した年次に遡って、まとめて申請を実施することができます。

《まとめて申請》

- 異例の手続きですので、事前に事務局に問合せしてください。
- 原則として、CPU 記録簿と記載記録資料を一緒に提出することになります。

《まとめて申請するケース》

- PMS 資格の更新期限が迫ってきたが、CPU 申請を長期間中断しており、今年次分の申請だけでは 48 ポイントに到達しない。
- CPU 申請を長期間中断したまま、更新期限を過ぎてしまい、PMS 資格を失効しているが、復活させたい。

申請を審査の結果、内容に問題がなければ、遡って資格更新手続きを行うことができます。更新期限を 2 度以上オーバーしていても、申請するための記録等が残っていたら、あきらめる必要はありません。

特に、プロジェクト業務に携わっている方は、高い基礎点を持っており、資格更新に必要な 48 ポイントをクリアする可能性が高いのです。

ただし、**資格更新料については未納分を遡って支払う**ことになるので要注意です。

## 2. CPU記録簿の作成（記入例）

「CPU 記録簿」(EXCEL ファイル)をPMAJのホームページからダウンロードして作成しましょう。

継続学習の活動分野ごとに、記録簿の記入例を用意しました。

### 第 1 年次CPU記録簿

申請年月日	2019年	4月	1日			
PMS資格認定番号	認 18-1-PMS9999					
氏 名	間 螺 子 免 斗					
E-mail	maneji_mento@xxxx.ne.jp					
会員区分	個人正会員	CPU ポイント	2.0			
会員番号	AJ 654321					
活動分野	区分	項番	プロジェクト名	時間(hr)	加算点	CPUポイント
I 実務活動	a 実務	1	プロジェクト1 ○○電気(株)働き方改革プロジェクト (プロジェクトマネジャー加算点)	300.0	2	2.0
		2	プロジェクト2 ○○市防災無線システム構築プロジェクト (プロジェクトマネジャー加算点)	1,050.0	2	2.0
		3	プロジェクト3 ○○電気(株)ダイバシティ推進プロジェクト 社内プロジェクト (プロジェクトマネジャー加算点)	300.0	0	0.0
		4	プロジェクト4 (プロジェクトマネジャー加算点)		0	0.0
		5	プロジェクト5 (プロジェクトマネジャー加算点)		0	0.0
実務活動小計				1,500.0		10.0
						4.0
活動分野	区分	項番	研究レポート標題	P2M区分	CPUポイント	
II 自主研究	a 自主 研究	6	レポート1 「プロジェクトを成功させる実践力が身につく本」から	一般	3.0	
		7	レポート2 「PMIに関する学習」報告書	一般	3.0	
		8	レポート3	0	0.0	
		9	レポート4	0	0.0	
自主研究小計					6.0	
活動分野	区分	項番	書籍タイトル	著者区分	P2M区分	CPUポイント
III 普及・啓蒙・教育・訓練  (1)書籍の著作	a 著作	10	書籍1 プロジェクトマネジメントの基礎(○○出版)	共著者	一般	10.0
		11	書籍2	0	P2M	0.0
		12	書籍3	0	P2M	0.0
		13	書籍4	0	P2M	0.0
		14	書籍5	0	P2M	0.0
a著作(書籍)小計					10.0	
活動分野	区分	項番	テキストまたはジャーナルのタイトル	著者区分	P2M区分	CPUポイント
III 普及・啓蒙・教育・訓練  (2)テキストまたは ジャーナルの著作	a 著作	15	著作1 PMAJジャーナル2018XX号 「プログラムマネジメントの力」	著者	P2M	20.0
		16	著作2	0	P2M	0.0
		17	著作3	0	P2M	0.0
		18	著作4	0	P2M	0.0
		19	著作5	0	P2M	0.0
a著作小計					20.0	

## 2. CPU記録簿の作成（記入例）

活動分野	区分	項番	PM受賞対象の表彰名	個人・団体	P2M区分	CPUポイント
Ⅲ 普及・啓蒙・教育・訓練 (3)PM受賞	b 普及	20	PM受賞1 20××年度PMAJ表彰「優秀貢献賞」	個人	P2M	10.0
		21	PM受賞2	0	P2M	0.0
		22	PM受賞3	0	P2M	0.0
		b普及小計				
活動分野	区分	項番	講演会、セミナー等の名称	時間(hr)	講演区分	CPUポイント
Ⅲ 普及・啓蒙・教育・訓練 (4)講師	d 講師	23	講師1 事業部内研修「プロマネとしての基本動作」	3	企業内研修	3.0
		24	講師2	0	0	0.0
		25	講師3	0	0	0.0
		26	講師4	0	0	0.0
		27	講師5	0	0	0.0
d講師小計					3.0	
活動分野	区分	項番	団体(活動)名称	期間(月数)	幹事区分	CPUポイント
Ⅲ 普及・啓蒙・教育・訓練 (5)PM団体活動 (PMAJ PMI 、PM学会等PM専門団体)	e 普及	28	PM団体活動1 PMAJ「PMシンポジウム20××実行委員会」	12	メンバー	4.0
		29	PM団体活動2		0	0.0
		30	PM団体活動3		0	0.0
		31	PM団体活動4		0	0.0
		32	PM団体活動5		0	0.0
e普及小計					4.0	
活動分野	区分	項番	その他関連業務	幹事区分	CPUポイント	
Ⅲ 普及・啓蒙・教育・訓練 (6)その他関連業務等 参加	f 普及	33	関連業務1 ○○電気株式会社第1事業部PM研究会	リーダー	/	2.0
		34	関連業務2	0	/	0.0
		35	関連業務3	0	/	0.0
		36	関連業務4	0	/	0.0
		37	関連業務5	0	/	0.0
関連業務小計					2.0	
活動分野	区分	項番	受講講座名称	時間(hr)	講座区分	CPUポイント
Ⅳ 受講	a 受講	38	受講証明有1 第○回例会(○○年○月○日)	/	/	3.0
		39	受講証明有2	/	/	0.0
		40	受講証明有3	/	/	0.0
		41	受講証明有4	/	/	0.0
		42	受講証明有5	/	/	0.0
		43	受講証明無1 プロジェクトマネジメント国際規格開発動向講演会20××	1.8	PM関連セミナー	1.8
		44	受講証明無2 チーム力を引き出す ファシリテーション講座	7.0	PMAJ認定	7.0
		45	受講証明無3 アジャイル開発基礎講座	2.0	企業内講義	1.0
		46	受講証明無4		0	0.0
47	受講証明無5		0	0.0		
a受講小計					12.8	

過去に取得したCPUの累計	0.0
今回取得したCPUの合計	83.8
今回分を加えたCPUの累計	83.8

## 2. (1) 申請者情報記入欄

第 1 年次CPU申請記録簿			
申請年月日	2019年	4月	1日
PMS資格認定番号：認	18-1-PMS9999		
氏名：	間螺子 免斗		
E-mail：	maneji_mento@xxxx.ne.jp		
会員区分：	個人正会員	CPU ポイント	2.0
会員番号：AJ	654321		

### 注>

- ①PMS 資格認定番号、氏名、E-mail アドレスによって申請者を識別するので、間違えないよう記入する。
- ②PMAJ 個人正会員は、年間 2 ポイントが付与される。  
プルダウンで会員区分「個人正会員」を選択し、会員番号を記入する。

## 2. (2) I. 実務活動 a 実務

活動分野	区分	項番	プロジェクト名	時間(hr)	加算点	CPUポイント
I 実務活動	a 実務	1	プロジェクト1 ○○電気(株)働き方改革プロジェクト (プロジェクトマネジャー加算点)	300.0	2	2.0
		2	プロジェクト2 ○○市防災無線システム構築プロジェクト (プロジェクトマネジャー加算点)	1,050.0	2	2.0
		3	プロジェクト3 ○○電気(株)ダイバシティ推進プロジェクト 社内プロジェクト (プロジェクトマネジャー加算点)	300.0	0	0.0
		4	プロジェクト4 (プロジェクトマネジャー加算点)		0	0.0
		5	プロジェクト5 (プロジェクトマネジャー加算点)		0	0.0
		実務活動小計				1,500.0
						4.0

### 注>

- ①担当したプロジェクト名および従事した時間を記入する。  
(企業名等開示できない箇所は、適宜記号等に置き換える)
- ②プロジェクトマネジャーを担当し、プロジェクトの特性に該当する項目が1件あれば1点、2件以上あれば2点をプルダウンから選択する。  
なお、「プログラムマネジャー」等は「プロジェクトマネジャー」と読み替える。
  - ・複雑なプロジェクト
  - ・難度が高いプロジェクト
  - ・新規性・創造性があるプロジェクト
  - ・企業貢献度が高いプロジェクト
  - ・社会的影響度が高いプロジェクト
  - ・大規模なプロジェクト
  - ・その他顕著な実績効果を伴うプロジェクト
- ③従事時間の合計(実務活動小計)が上限の1500時間を超えた場合、一律1500時間の表示となる。
- ④年間プロジェクト件数が5件を超える場合は、「記録簿2」シートに6件目以降を記入する。

### 《CPU 審査》

- ①CPU 記録簿に記載したプロジェクト(またはプログラム)毎に、指定様式(様式-A)に記入して保管し、「CPU 審査」に備える。

## 《継続学習形態と CPU ポイント表》

活動分野	区分	活動内容	CPU	CPU 単位	補足コメント
I 実務活動	a 実務	(1)PM 実務活動（基本点）	1	150 時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間の上限は 10CPU</li> <li>・ *担当したプロジェクト（またはプログラム、以下同様）毎に、指定様式（様式-A）に記入して保管する。</li> </ul>
		(2)プロジェクトマネジャー加算点 下記に該当する項目が 1 件あれば 1CPU、2 件以上あれば 2CPU。	1 or 2	プロジェ クト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロジェクトマネジャーと同等の責任ある立場の人も対象とする。</li> <li>・ 担当プロジェクトにつき、上記の指定様式（様式-A）に付記する。</li> <li>・ 加算点は、プロジェクト毎に 1CPU または 2CPU となる。</li> </ul>
		①複雑なプロジェクトを遂行した。			
		②難度の高いプロジェクトを遂行した。			
		③新規性・創造性のあるプロジェクトを遂行した。			
		④企業貢献度の高いプロジェクトを遂行した。			
		⑤社会的影響度の高いプロジェクトを遂行した。			
⑥大規模なプロジェクトを遂行した。					
⑦その他顕著な実績効果を伴うプロジェクトを遂行した。					

プロジェクトの実務活動に従事した時間を、年間 1500 時間 10 ポイントを上限として、継続学習の実績として計上することができます。

プラント建設やシステム開発等業務として従事するプロジェクトに限らず、各種イベントや社内改革プロジェクト等も対象になります。

また、複雑なプロジェクトや難度の高いプロジェクトにプロジェクトマネジャーとして臨むケースは、PMS 資格資格者としてのスキル向上への貢献度が高いと考えられることから、加点することができます。

項番1・プロジェクト1

この例は、社内改革プロジェクトである。  
 本業ではなくても1年間の時間を累計すると結構な時間になるケースが多い。  
 PMとして活動した場合は、加算点を計上できる。

様式-A

作成年月日 2019年 10月 1日

PMS 資格認定番号 認 XX-1-PMS9999

氏名 間螺子 免斗

プロジェクト実務活動記録	
プロジェクトNo	1
プロジェクト名称	〇〇電気(株)働き方改革プロジェクト
顧客先	社内プロジェクト
金額規模	100 百万円(PC 等機器更新費用)
プロジェクト開始・終了年月	2018年 1月 ~ 2019年 3月
うち従事期間	2018年 1月 ~ 2018年 12月
うち今回申請期間	2018年 10月 ~ 2018年 12月( 300時間)
プロジェクトおける貴殿の職位 該当のところにチェック	<input type="checkbox"/> 1. プロジェクトマネジャーあるいはリーダー (加算点対象者) <input checked="" type="checkbox"/> 2. プロジェクトマネジャーあるいはリーダーの補佐 (加算点対象者) <input type="checkbox"/> 3. プロジェクトメンバー <input type="checkbox"/> 4. プロジェクトスタッフ
≪プロジェクトマネジャー加算点項目≫ プロジェクトマネジャー等(上記1または2にチェック)は、担当プロジェクトの特徴として下記に該当する項目があればチェックする。	
<input checked="" type="checkbox"/> 複雑なプロジェクトを遂行した。	
<input type="checkbox"/> 難度の高いプロジェクトを遂行した。	
<input type="checkbox"/> 新規性・創造性のあるプロジェクトを遂行した。	
<input checked="" type="checkbox"/> 企業貢献度の高いプロジェクトを遂行した。	
<input type="checkbox"/> 社会的影響度の高いプロジェクトを遂行した。	
<input type="checkbox"/> 大規模なプロジェクトを遂行した。	
<input type="checkbox"/> その他顕著な実績効果を伴うプロジェクトを遂行した。	
上記にチェックした理由	
過去に実施した残業削減等の業務改善プロジェクトの成果は乏しく、全社員のやる気を鼓舞するところから様々な工夫が必要であった。2018年12月までに全社員が納得できる計画策定に主導的に関わった。	
計画の実施は人事部門に委ねたが、2019年4月以降残業も減り、自己啓発に取り組む者が急増している。	
≪プロジェクトの概要と貴殿の果たした役割≫	
プロジェクトの概要:無駄な残業を削減し、全社員がライフサイクルバランスを実現させることを目的とした全社的業務改革プロジェクト。2018年末までに計画を策定し、2019年4月から計画を実行する。	
役割:所属する第1事業部内のプロジェクトリーダーとして意見集約、計画策定等に携わった。	

項番 2・プロジェクト 2

この例は、本来業務としてプロジェクト実務に携わっているケース。  
プロジェクトマネジャー加算項目が 3 項目に及ぶので、加算点は 2 点となる。

様式-A

作成年月日 2019 年 10 月 1 日

PMS 資格認定番号 認 XX-1-PMS9999

氏名 間螺子 免斗

プロジェクト実務活動記録	
プロジェクト No	2
プロジェクト名称	〇〇市防災無線システム構築プロジェクト
顧客先	〇〇市
金額規模	500 百万円
プロジェクト開始・終了(予定)年月	2019 年 1 月 ~ 2020 年 3 月
うち従事(予定)期間	2019 年 1 月 ~ 2020 年 3 月
うち今回申請期間	2019 年 1 月 ~ 2019 年 9 月( 1050 時間)
プロジェクトおける貴殿の職位 該当のところにチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 1. プロジェクトマネジャーあるいはリーダー (加算点対象者) <input type="checkbox"/> 2. プロジェクトマネジャーあるいはリーダーの補佐 (加算点対象者) <input type="checkbox"/> 3. プロジェクトメンバー <input type="checkbox"/> 4. プロジェクトスタッフ
≪プロジェクトマネジャー加算点項目≫ プロジェクトマネジャー等(上記 1 または 2 にチェック)は、担当プロジェクトの特徴として下記に該当する項目があればチェックする	
<input type="checkbox"/> 複雑なプロジェクトを遂行した。	
<input checked="" type="checkbox"/> 難度の高いプロジェクトを遂行した。	
<input type="checkbox"/> 新規性・創造性のあるプロジェクトを遂行した。	
<input type="checkbox"/> 企業貢献度の高いプロジェクトを遂行した。	
<input checked="" type="checkbox"/> 社会的影響度の高いプロジェクトを遂行した。	
<input checked="" type="checkbox"/> 大規模なプロジェクトを遂行した。	
<input type="checkbox"/> その他顕著な実績効果を伴うプロジェクトを遂行した。	
上記にチェックした理由	
被災地住民の安心感を確保し、引き続き居住し続けたいという意欲を持たせるためにも必要なインフラである。	
支出局 80 及び 500 戸との安定通信を実現させる等、緻密な運営を必要とする大規模プロジェクトである。	
≪プロジェクトの概要と貴殿の果たした役割≫ (プロジェクトの概要)	
〇〇市では、先般の大規模地震において大きな被害を受けたことから、避難誘導を迅速に行うとともに、被災後の連絡網確保と迅速復旧を可能とする防災無線システムを導入することになった。	
本出局 2、支出局 80、各戸受信器 500 を備える大規模プロジェクトである。	
(役割)	
本出局設備構築担当のリーダーとして、〇〇市防災責任者とのシステム要件固めといった初期段階から関与。	

項番 3・プロジェクト 3

この例は、例 1 と同様の社内改革プロジェクト。  
プロジェクトメンバーとしての参加のため、加算点が見つからない。

様式-A

作成年月日 2019 年 10 月 1 日

PMS 資格認定番号 認 XX-1-PMS9999

氏名 間螺子 免斗

プロジェクト実務活動記録	
プロジェクト No	3
プロジェクト名称	〇〇電気(株)ダイバシティ推進プロジェクト
顧客先	社内プロジェクト
金額規模	10 百万円(コンサル委託他調査費用等)
プロジェクト開始・終了(予定)年月	2019 年 1 月 ~ 2019 年 12 月
うち従事(予定)期間	2019 年 1 月 ~ 2019 年 12 月
うち今回申請期間	2019 年 1 月 ~ 2019 年 9 月( 200 時間)
プロジェクトおける貴殿の職位 該当のところにチェック	<input type="checkbox"/> 1. プロジェクトマネジャーあるいはリーダー (加算点対象者) <input type="checkbox"/> 2. プロジェクトマネジャーあるいはリーダーの補佐 (加算点対象者) <input checked="" type="checkbox"/> 3. プロジェクトメンバー <input type="checkbox"/> 4. プロジェクトスタッフ
≪プロジェクトマネジャー加算点項目≫ プロジェクトマネジャー等(上記 1 または 2 にチェック)は、担当プロジェクトの特徴として下記に該当する項目があればチェックする。	
<input type="checkbox"/> 複雑なプロジェクトを遂行した。	
<input type="checkbox"/> 難度の高いプロジェクトを遂行した。	
<input type="checkbox"/> 新規性・創造性のあるプロジェクトを遂行した。	
<input type="checkbox"/> 企業貢献度の高いプロジェクトを遂行した。	
<input type="checkbox"/> 社会的影響度の高いプロジェクトを遂行した。	
<input type="checkbox"/> 大規模なプロジェクトを遂行した。	
<input type="checkbox"/> その他顕著な実績効果を伴うプロジェクトを遂行した。	
上記にチェックした理由	
≪プロジェクトの概要と貴殿の果たした役割≫ プロジェクトの概要:海外業務が増加するとともに、社内の外国人の割合も増え、習慣の違い等によるトラブルが散見されるようになった。真のグローバル企業を目指して何をなすべきか、各部署から集めたメンバーによる PJ チームで 1 年かけて改革案を策定する。	
役割: 第一事業部代表として毎週開催する PJ 会議に参加。事業部内の意見集約や実態調査を担当	

## 2. (3) II. 自主研究 a 自主研究

活動分野	区分	項番	研究レポート標題	P2M区分	CPUポイント
II 自主研究	a 自主 研究	6	レポート1 「プロジェクトを成功させる実践力が身につく本」から	一般	3.0
		7	レポート2 「PMIに関する学習」報告書	一般	3.0
		8	レポート3	0	0.0
		9	レポート4	0	0.0
	自主研究小計				

### 注>

- ①研究レポートの標題を記入し、「P2M」関連か「一般」PM 関連かをプルダウンで選択する。
- ②レポート件数が年間 5 件以上になると、CPU が上限値を超えるので 4 件を超える入力 は不要。
- ③合計ポイントが 10 ポイントを超えると、一律 10 ポイントになる。

### 《審査》

- ①CPU 記録簿に記載した小論文やレポート、学習の記録等を保管し、「CPU 審査」に備える。
- ②これらの証跡は特定の様式を定めていない。所属する企業・団体内で定められた様式で作成された報告書等を証跡として使用することは可能である。ただし、所属組織の情報管理ルール等に抵触することが無いよう注意する必要がある。

## 《継続学習形態と CPU ポイント表》

活動分野	区分	活動内容	CPU	CPU 単位	補足コメント
Ⅱ 自主研究	a 自主研究	(1)PM に関する研究や学習等の推進 ①P2M の内容を研究課題とし、成果を小論文、レポートにまとめた。	5	件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間の上限は 10CPU</li> <li>・小論文、レポートは A4 で 5 枚を目途とする。</li> <li>・P2M あるいは一般 PM に関する内容であれば、社内報告や PMAJ 以外が発行する論文集への寄稿等も対象とする。</li> <li>・共同で研究した場合も対象とする。</li> <li>*小論文・レポートあるいは学習の記録等を保管する。</li> </ul>
		②一般 PM の内容を研究課題とし、成果を小論文、レポートにまとめた。	3	件	

プロジェクトマネジメント、プログラムマネジメントに関する研究や学習等、PMS 資格者の知見を高める活動について、継続学習実績として計上できます。

小論文やレポートとあるので、敬遠する方が多いのですが、「**学習**」も対象になることを覚えてください。



プロジェクトを推進するためには、P2Mの領域以外に「技術」や「業務知識」が必要です。例えば、「一級建築士」であるとか「情報処理技術者」という資格取得のための学習は、プロジェクトに必要な技能習得のための学習として、計上することができます。

プロジェクトに必要な技能とは、例えばプロジェクトの効率性を高める効果がある専門スキルといったことを指します。

また、学習するかどうかの評価対象なので、試験の合否までは問いません。

もちろん、いわゆる資格マニアのようにプロジェクトと関わりのない資格取得学習は対象外です。

この例は、小論文である。

参考書籍を基に、5枚程度のレポートを作成。

このレポートは社内勉強会（項番33 関連業務1）で使用するために作成しているが、使用目的未定で作成することも可である。

2019年 2月 10日

「プロジェクトを成功させる実践力が身につく本」から

〇〇電気株式会社 間螺子 免斗

（はじめに）

「プロジェクトを成功させる実践力が身につく本」は、情報処理推進機構（IPA）においてITスキル標準をサポートするITスキル標準センターのブレインとして活躍した4名の超ベテランによって執筆された。執筆者の中には、PMAJが認定するPMマイスターが2名含まれている。

この本では、前段で「実践力」を6つの領域に分解し、それぞれどのような場面で実践力が要請されるのか、実践力を発揮するにはどのような知識・スキルが必要かといったことを解説している。そのうえで、11の事例を並べ、実践力の中のどの要素が効果を発揮したかを解説している。さらに、各事例の記載において、実践力を発揮できなかったケースと発揮できたケースとを対比して記述、理解を深めている。

11番目の事例は、海外において電気通信設備を新設するプロジェクトである。プライベート・ファイナンス・イニシアティブ（PFI）事業であり、外国の電気通信公社を顧客とし、他の外国企業も参加する多国籍の特別目的会社（SPC）として行う事業であるなど、今後我が社においても取り扱いが増大すると考えられる分野である。我が社の業務推進上、大いに参考になると期待できることから、事例の内容を再整理する。

（本文）

1. PM 実践力の6つの領域

領域	定義	項目
コミュニケーション	適切な手段を使って効果的かつ適切に意思疎通を行う	コミュニケーション、ネゴシエーション
リーディング	チームの結集力、相乗効果、生産性を高めるとともにメンバーをモチベートする	ビジョニング、チーム活性化、率先垂範、動機づけ
マネージング	プロジェクトの目的達成を志向し、計画・リソース配分を行うとともに、モニタリングコントロールを行う	計画性、モニタリングとコントロール
エフェクティブネス	プロジェクト活動の効果を、適切なリソース、ツール、およびテクニックを使用して望ましい結果へと導く	コンフリクトマネジメント、関係調整力、判断力
認知力	プロジェクトを俯瞰的に捉え、問題を認識するとともに適切に課題を解決する	全体的（戦略的）視点、情報収集、問題発見力、課題解決力
自己規律	責任、多様性、公正、実直の考えをもって倫理的な行動に基づき、プロフェッショナルとして卓越したプロジェクトマネジメントを遂行する	責任感、倫理観・誠実性、多様性の尊重

2. 事例概要（大規模電気通信設備の多国籍プロジェクト）

主人公はB国の電気通信設備新設工事PJの日本人PDである。配下のPMはA国、さらに複数のサブPJを率いるアシスタントPMは日本とA国であり、作業等を実施する業者はA国、B国、日本となっており様々な組合せ形態となっている。PDが調達、設計を見て、工事現場をPMに一任していた。

1番目は、作業が進むに従って、現場から様々な問題がPDに直接上がってきたという場面である。

ここで、PDがPM実践力の2つの領域「リーディング」「認知力」を發揮できるかどうかによって、

この後、書籍の要約に筆者の見解を加えた文章が続き、全5頁のレポートとなる。

この例は、PM 関連学習である。  
プロジェクトの業務効率向上に繋げる学習目標として、情報処理試験合格を設定し、受験勉強を取り上げている。試験の合否は問わないが、プロジェクトとの関連を記述した報告書等の記録を残す必要がある。(様式は自由。審査を受ける場合、証跡として提出できる文書が必要)

作成年月日 2019年 10月 1日

PMS 資格認定番号 認 XX-1-PMS9999

氏名 間螺子 免斗

「PM に関する学習」報告書

1. 学習課題

情報処理技術者試験（データベーススペシャリスト試験）受験に向けた学習

2. 学習の狙い・成果等

(1) プロジェクトとの関連と学習の狙い

現在、社内の顧客情報管理システムの保守運営を担当しており、年間 2～3 件のシステム保守プロジェクトにメンバーとして参加する機会がある。

セキュリティ対策や効率的なデータベース運用に関してよりの確な判断を可能とし、システム保守プロジェクトの業務効率を向上させるには、現行システムが採用している顧客情報管理データベースの構造について、体系的に理解することが有用である。

情報処理技術者試験（データベーススペシャリスト試験）は、データベース構造理解のために必要な技能の獲得状況を確認できる試験である。

(2) 学習方法

2018年9月から、市販の参考書を使って自習し2019年4月に実施の同試験を受験。

(3) 成果

不合格とはなったが、データベースに係る ICT 技能は確実に向上し、セキュリティに関する知識向上を図る事ができた。

引き続き学習を継続し、データベースに係る ICT 技能のさらなる向上を目指す。

以上

## 2. (4) Ⅲ. 普及・啓蒙・教育・訓練 ア. 書籍の著作

活動分野	区分	項番	書籍タイトル	著者区分	P2M区分	CPUポイント	
Ⅲ 普及・啓蒙・教育・訓練  (1)書籍の著作	a 著作	10	書籍1	プロジェクトマネジメントの基礎(〇〇出版)	共著者	一般	10.0
		11	書籍2		0	P2M	0.0
		12	書籍3		0	P2M	0.0
		13	書籍4		0	P2M	0.0
		14	書籍5		0	P2M	0.0
		a著作(書籍)小計					10.0

### 注>

①書籍タイトル・出版社を記入し、著者区分(著者、共著者、監修・編集者)および「P2M」関連か「一般」PM 関連かをプルダウンで選択する。

②年間書籍件数が 5 件を超える場合は、「記録簿 2」シートに 6 件目以降を記入する。

### 《審査》

①「CPU 審査」に備えて、書籍を保管する。

## 《継続学習形態と CPU ポイント表》

活動分野	区分	活動内容	CPU	CPU 単位	補足コメント
Ⅲ 普及・啓蒙・教育訓練	a 著作	(1)書籍の著作			・一般の PM に関する書籍制作については、 左記の半分のポイントとする。 *書籍を保管する。
		1)P2Mに関する書籍制作			
		①著者	40	冊	
		②共著者	20	冊	
		③監修者・編集者	10	冊	

項番 10・書籍 1

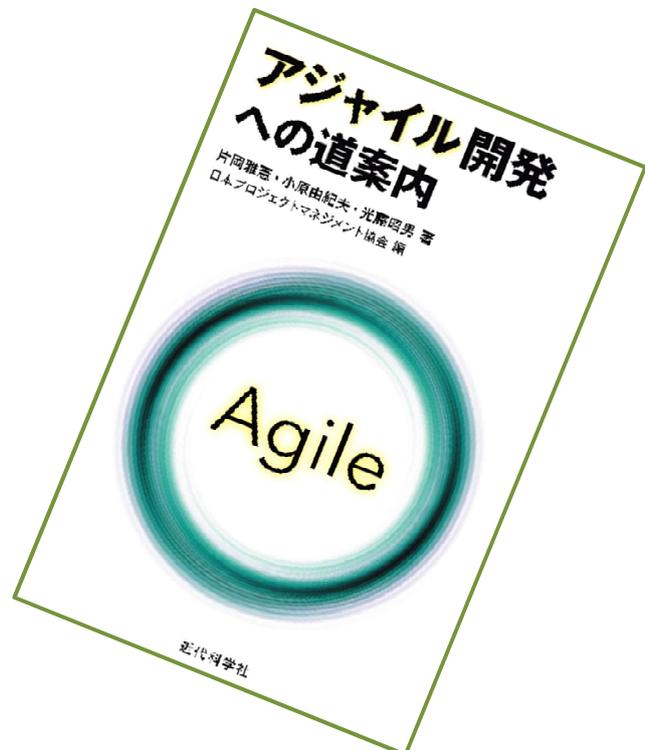
PM 関連の書籍製作が対象となる。

著者、共著者、監修・編集者の区分は書籍上の表示によって、切り分ける。

P2M か一般 PM かの識別は、書籍の内容によって、判定する。



\*その他 PMAJ 会員が作成した書籍



## 2. (4) Ⅲ. 普及・啓蒙・教育・訓練 イ. テキストまたはジャーナルの著作

活動分野	区分	項番	テキストまたはジャーナルのタイトル	著者区分	P2M区分	CPUポイント
Ⅲ 普及・啓蒙・教育・訓練  (2)テキストまたはジャーナルの著作	a 著作	15	著作1 PMAJジャーナル2018XXX号 「プログラムマネジメントの力」	著者	P2M	20.0
		16	著作2	0	P2M	0.0
		17	著作3	0	P2M	0.0
		18	著作4	0	P2M	0.0
		19	著作5	0	P2M	0.0
		a著作小計				20.0

注>

- ①テキスト名あるいはジャーナル名・タイトルを記入し、著者区分(著者、共著者、監修・編集者)および「P2M」関連か「一般」PM 関連かをプルダウンで選択する。  
PMAJ ジャーナルへの寄稿の場合は、掲載年・号数を明記する。

- ②年間著作件数が5件を超える場合は、「記録簿2」シートに6件目以降を記入する。

《審査》

- ①「CPU 審査」に備えて、テキストを保管する。PMAJ ジャーナルへの寄稿の場合は、記録簿に掲載年・号数・タイトルを明記すれば証跡は不要である。

### 《継続学習形態と CPU ポイント表》

活動分野	区分	活動内容	CPU	CPU単位	補足コメント
Ⅲ 普及・啓蒙・教育訓練	a 著作	(2)テキストまたはジャーナルの著作			・一般のPMに関するテキストについては、左記の半分のポイントとする。 *テキストを保管する。  ・一般のPMに関するジャーナルについては、左記の半分のポイントとする。 *ジャーナルを保管する。
		1)P2M 講習会やP2M セミナー用のテキスト執筆			
		①著者	20	編	
		②共著者	10	編	
		③監修者・編集者	6	編	
		2) P2M に関するジャーナル記事の執筆			
①著者	20	編			
②共著者	10	編			
③監修者・編集者	6	編			

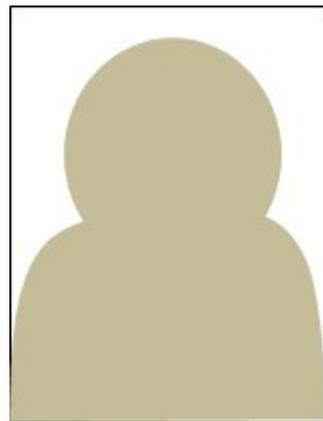
自由テーマ

投稿 4

# プログラムマネジメントの力

この例は、著作（ジャーナル執筆）である。「プログラムマネジメントの力」というタイトルで、P2M の実践事例を記述した論文なので 20 ポイントになる。

〇〇電気株式会社  
第一事業部  
まねじ めんと  
間螺子 免斗



## 1. はじめに

団塊の世代が幼かった頃には家庭用電化製品、いわゆる家電は、三種の神器とよばれたことがあるなど、人々の憧れの商品であった。次から次へと新製品が市場へと送り込まれ、メーカー各社は開発競争に追われていた。現在、家電への憧れといったものは影を潜め、画期的な新製品といっても、消費者の反応は鈍い。例えば、4Kとか 8Kといった画像の鮮明さを訴えるテレビを出しても、既存のテレビが古くなったと感じている買い替え層以外には購入しようという動きは僅かである。いまや、家電は買い替え層の興味をいかに引くかというところに、商品戦略の重点が置かれるようになったといっても過言ではない。

こうした状況を踏まえ、我が社では提供する家電全商品について、買い替え需要を確実に取り込むために、ほぼ毎年新製品を出すようにしている。新と旧とで、製品の機能に大きな違いがなくても、新発売から1年も経つ商品は家電量販店の店頭で置かれなくなる。とにかく新製品を開発しなければならないのである。買い替え需要はコンスタントにあるとはいえ、ボリュームには限度があることから、開発コストは極力抑えなければならない。

我が社では、家電全商品の各開発プロジェクトについて、プログラムマネジメントを導入することにより、コストセーブとともに、何らかの新たな価値の創造を実現しようと考えた。このレポートは、プログラムマネジメントによって実現した新たな価値とその実現していくプロセスを紹介する。

## 2. ありのままの姿

新商品開発プロジェクトは、家電の各製品事業部において製品ラインナップの数だけ立ち上がる。新商品といっても、全く新しいものを開発するのではなく、既存商品の一部機能やデザインを改善するとか、機能追加・削除するものである。部品の互換性を維持しなければならないなど、制約も多い。

こうしたプロジェクトの運営は部署毎に行われており、あらためて見直すと以下のような「ありのままの姿」が明らかになった。

### 2-1. 開発コスト（予算の獲得）

製品毎の買い替え市場規模は、統計データ等によって推計することができる。メーカー毎の市場シェアによって、年間売り上げ予測も立てることができる。開発予算は、こうしたデータに沿って配分することが、長年の慣習になっていた。プロジェクトは製品担当部署毎に進められ、開発予算をどれだけ上積みするかは、各部署長の手腕によるとされていた。

### 2-2. 開発方針

一部の製品群は 10 年前に統一デザインの考え方を導入し、商品コンセプト等の刷新を図っていたが、配色等の共通性もなくデザインの統一性は薄れてしまっていた。既存商品のどの部分に修正を加えるかとか、どういった機能を追加するか、配色をどうするかといった開発方針については、与えられた予算の中で、部署毎に検討していた。方針決定のヒントとなる、デザイン動向や商品トレンドといった情報は、部署毎に外部調査機関から入手していた。

この後、ありのままの姿の後続、あるべき姿、段階目標等が展開され、8 頁の論文となる。

## 2. (4) III. 普及・啓蒙・教育・訓練 ウ. PM受賞

活動分野	区分	項番	PM受賞対象の表彰名	個人・団体	P2M区分	CPUポイント
III 普及・啓蒙・教育・訓練 (3)PM受賞	b 普及	20	PM受賞1 20××年度PMAJ表彰「優秀貢献賞」	個人	P2M	10.0
		21	PM受賞2	0	P2M	0.0
		22	PM受賞3	0	P2M	0.0
		b 普及小計				

注>

- ①PM 受賞対象の表彰名を記入し、個人・団体区分及び P2M 区分をプルダウンから選択する。
- ②受賞件数が年間 3 件を超える場合は、「記録簿 2」シートに 4 件目以降を記入する。

《審査》

- ①表彰状等を保管し、「CPU 審査」に備える。  
チーム等団体が表彰された場合には、団体宛に授与された表彰状等の写真や画像データを保管しておく。

### 《継続学習形態と CPU ポイント表》

活動分野	区分	活動内容	CPU	CPU 単位	補足コメント
III 普及・啓蒙・教育訓練	b 普及	(3)PM 受賞			・団体で受賞した場合は、左記の半分のポイントとする。 *表彰状(写し可)を保管する。
		PMAJ およびその他(準)公的機関、団体、企業などによる PM に関する受賞者			
		①P2M に関する受賞	10	件	
		②一般の PM に関する受賞	6	件	

#### 項番 20・PM 受賞 1

この例は、個人に対する PMAJ 表彰で授与された表彰状である。



## 2. (4) III. 普及・啓蒙・教育・訓練 エ. 講師

活動分野	区分	項番	講演会、セミナー等の名称	時間(hr)	講演区分	CPUポイント
III 普及・啓蒙・教育・訓練  (4)講師	d 講師	23	講師1 事業部内研修「プロマネとしての基本動作」	3	企業内研修	3.0
		24	講師2	0	0	0.0
		25	講師3	0	0	0.0
		26	講師4	0	0	0.0
		27	講師5	0	0	0.0
		d講師小計				

注>

- ①講師を務めた講演会・セミナー等の名称及び実施時間を記入し、講演区分(PM シンポ等、大学等、P2M 資格、PMAJ 認定機関、企業内研修)をプルダウンで選択する。
- ②講師件数が年間5件を超える場合は、「記録簿2」シートに6件目以降を記入する。

《審査》

- ①CPU 記録簿に記載した講演会、セミナー毎に、指定様式(様式-B)に記入して保管し、「CPU 審査」に備える。

### 《継続学習形態と CPU ポイント表》

活動分野	区分	活動内容	CPU	CPU 単位	補足コメント
III 普及・啓蒙・教育訓練	d 講師	<b>(4)講師</b>			*指定様式(様式-B)による講義内容の記録を保管する。  以下のケースについては「企業内 PM 関連研修」の講師と同等とみなす。 ・学生のインターシップ指導 ・PMAJ の認定外の教育機関の PM 教育の講師
		1) PM 関係のシンポジウム、ワークショップ、公式会議関係			
		①講師	5	1 時間	
		②講演者	5	1 時間	
		③発表者 (研究課題等)	5	1 時間	
		④討議者	5	1 時間	
		⑤座長・司会者	5	1 時間	
		2) 大学等の学術教育に PM 教育の講師	2	1 時間	
3) PMAJ が指定する P2M 資格講座	3	1 時間			
4) PMAJ 認定の教育機関による PM 教育	2	1 時間			
5) 企業内 PM 関連研修	1	1 時間			

項番 23・講師 1

この例は、社内 PM 研修の講師である。

PMAJ 主催講習会や大学講義の講師だとハードルが高いが、社内研修会等であれば実施する機会も多い。

様式-B

作成年月日 2019年 10月 1日

PMS 資格認定番号 認 XX-1-PMS9999

氏名 間螺子 免斗

プロジェクトマネジメント教育講師 実施記録	
講師 No	1
講演会セミナー等の名称	プロマネとしての基本動作
講演会セミナー等の種類 該当のところにチェック	<input type="checkbox"/> PM 関係のシンポジウム、ワークショップ、公式会議関係 <input type="checkbox"/> 講師 <input type="checkbox"/> 講演者 <input type="checkbox"/> 発表者（研究課題等） <input type="checkbox"/> 討議者 <input type="checkbox"/> 座長・司会者 <input type="checkbox"/> 大学等の学術教育に PM 教育の講師 <input type="checkbox"/> PMAJ が指定する P2M 資格講座 <input type="checkbox"/> PMAJ 認定の教育機関による PM 教育 <input checked="" type="checkbox"/> 企業内 PM 関連研修または PMAJ 認定外の PM 教育機関の講師他
教育の主催者名	〇〇電気(株)第 1 事業部 PMO グループ
開催場所	第 1 事業部第 1 会議室
受講者 該当のところにチェック	<input type="checkbox"/> 学生 <input checked="" type="checkbox"/> 企業人 <input type="checkbox"/> 官公庁の職員 <input type="checkbox"/> その他
開始年月日	2019年 2月 16日
終了年月日	2019年 2月 16日
講師実施時間	3 時間
教育した内容	
<対象者>	
第 1 事業部内の新任のプロジェクトマネジャー及びプロジェクトマネジャー候補（15 名）	
<内容>	
プロジェクトマネジャーの基本動作として、各種管理帳票の見方・勘所を経験を基に説明。	
問題発生に繋がる予兆事象の特徴、対処の仕方などマニュアルでは説明しきれない内容を、	
具体例を基に説明。	

## 2. (4) III. 普及・啓蒙・教育・訓練 オ. PM 団体活動 (PMAJ、PMI、PM 学会等 PM 専門団体)

活動分野	区分	項番	団体(活動)名称	期間(月数)	幹事区分	CPUポイント
III 普及・啓蒙・教育・訓練  (5)PM団体活動 (PMAJ、PMI 、PM学会等PM専門団体)	e 普及	28	PM団体活動1 PMAJ「PMシンポジウム20××実行委員会」	12	メンバー	4.0
		29	PM団体活動2		0	0.0
		30	PM団体活動3		0	0.0
		31	PM団体活動4		0	0.0
		32	PM団体活動5		0	0.0
		e普及小計				4.0

注>

- ①参加した PM 組織(または活動)名称及び参加月数を記入し、幹事区分(リーダー、メンバー)をプルダウンで選択する。
- ②団体活動件数が年間 5 件を超える場合は、「記録簿 2」シートに 6 件目以降を記入する。

《審査》

- ①CPU 記録簿に記載した団体活動毎に、指定様式(様式-C)に記入して保管し、「CPU 審査」に備える。

### 《継続学習形態と CPU ポイント表》

活動分野	区分	活動内容	CPU	CPU 単位	補足コメント
III 普及・啓蒙・教育訓練	e 普及	(5)PM 団体活動 (PMAJ、PMI、PM 学会等 PM 専門団体)	2	3 ヶ月	・複数の組織において活動した場合においても 10CPU/年を上限とする。 * 指定様式(様式-C)による活動内容の記録を保管する。
		①PM 組織のリーダー・幹事として活動			
		②PM 組織のメンバーとして活動	1	3 ヶ月	



## 2. (4) III. 普及・啓蒙・教育・訓練 カ. その他関連業務等参加

活動分野	区分	項番	その他関連業務	幹事区分	CPUポイント
III 普及・啓蒙・教育・訓練  (6)その他関連業務等参加	f 普及	33	関連業務1 ○○電気株式会社第1事業部PM研究会	リーダー	2.0
		34	関連業務2	0	0.0
		35	関連業務3	0	0.0
		36	関連業務4	0	0.0
		37	関連業務5	0	0.0
		関連業務小計			

注>

- ① その他関連業務の標題を記入し、幹事区分(リーダー、メンバ)をプルダウンで選択する。
- ② 関連業務件数が年間5件を超える場合は、「記録簿2」シートに6件目以降を記入する。

《審査》

- ① CPU記録簿に記載した関連業務毎に、記録(様式任意)を作成保管し、「CPU審査」に備える。

### 《継続学習形態とCPUポイント表》

活動分野	区分	活動内容	CPU	CPU単位	補足コメント
III 普及・啓蒙・教育訓練	f 普及	(6)その他関連業務等参加			<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間の上限は10CPU</li> <li>・PM関連の社内勉強会等が対象となる。</li> <li>*参加の証跡となる記録(様式任意)を保管する。</li> </ul>
		(1)～(6)に関連する業務をリーダー・幹事として活動	2	各単位	
		(1)～(6)に関連する業務をメンバーとして活動	1	各単位	



## 2. (5) IV. 受講 a 受講

活動分野	区分	項番	受講講座名称	時間(hr)	講座区分	CPUポイント
IV 受講	a 受講	38	受講証明有1 第〇回例会(〇〇年〇月〇日)			3.0
		39	受講証明有2			0.0
		40	受講証明有3			0.0
		41	受講証明有4			0.0
		42	受講証明有5			0.0
		43	受講証明無1 プロジェクトマネジメント国際規格開発動向講演会20××	1.8	PM関連セミ	1.8
		44	受講証明無2 チーム力を引き出す ファシリテーション講座	7.0	PMAJ認定	7.0
		45	受講証明無3 アジャイル開発基礎講座	2.0	企業内講義	1.0
		46	受講証明無4		0	0.0
		47	受講証明無5		0	0.0
		a受講小計				12.8

### 注>

#### ①PMAJが発行した「CPU取得証明書」(受講証明)がある場合

- ・証明書に記載の講座名およびCPUポイントを記入する。
- ・証明書が5枚を超える場合は、「記録簿2」シートに6枚目以降を記入する。

#### ②受講証明がない場合

- ・受講した講座名称及び受講時間を記入し、講座区分(PM関連セミナー、大学等講義、企業内講義、PMAJ認定講義)をプルダウンで選択する。
- ・講座件数が年間5件を超える場合は、「記録簿2」シートに6件目以降を記入する。

### 《審査》

#### ①受講証明書がある場合は、その証明書を保管し「CPU審査」に備える。

#### ②受講証明書がない場合は、CPU記録簿に記載した受講講座毎に記録(様式D)を作成保管し、「CPU審査」に備える。

## 《継続学習形態とCPUポイント表》

活動分野	区分	活動内容	CPU	CPU単位	補足コメント
IV 受講	a 受講	1)PM関係のシンポジウム、ワークショップ、公式会議関係へ参加	1	1時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・*1 学生のインターンシップを含む</li> <li>・*2 「PMAJが認定する教育機関の教育を受講」が基本単位</li> <li>・「PMAJの認定外の教育機関のPM教育を受講」は、2時間で1CPUとなる。</li> <li>・P2Mクラブ会員またはPMAJ会員は年間2CPUが付与される。</li> <li>*指定様式(様式D)による受講内容の記録を保管する。</li> </ul>
		2)大学、大学院等の正式な学術機関によるPM教育の受講	0.5	1時間	
		3)*1 企業内PM関連教育受講	0.5	1時間	
		4) PMAJが指定するP2M資格講座を受講	2	1時間	
		5)*2 PMAJが認定する共催講座のPM教育を受講	1	1時間	

この例は、CPU 取得証明書である。

PMAJ が学習内容に基づく CPU ポイントを証明済であることから、記録（様式D）の作成を不要としている。

999



## PMS 資格継続学習基準 CPU 取得証明書

殿

貴殿は当協会が実施した下記講座等に参加し、PMS 資格継続学習基準に基づく CPU ポイントを取得したことをここに証します。

- ・講座名等：第 1 回例会
- ・開催日：平成 29 年 4 月 28 日
- ・開催場所：トウセン東麻布ビル
- ・CPU 時間：1.5 時間
- ・CPU ポイント：3 ポイント

平成 29 年 4 月 28 日

特定非営利活動法人

日本プロジェクトマネジメント協会







<参考>主な CPU ポイント取得可能な研修、イベントの一覧(2019 年度)

イベント名/講座名	開催日	会場	CPU
関西 PM セミナー2019	2019/5/17	大阪市立城東区民センター	11
北海道 PM セミナー2019	2019/7/12	エルプラザ	11
PM シンポジウム 2019	2019/9/5・6	タワーホール船堀	22
中部 PM セミナー2019	2019/10/11	ウィンクあいち	11
中四国 PM セミナー2019	2019/10/25	RCC 文化センター	11
産学連携 PM セミナー2019	2019/11/15	一橋講堂	11
九州 PM セミナー2019	2019/12/6	電気ビル共創館	11
沖縄 PM セミナー2020	2020/1/31	未定	11
新春 PM セミナー2020	2020/2/7	渋谷区文化総合センター大和田	11
P2M プログラム実践研修	①2019/5/10・5/11	PMAJ (東京都港区東麻布)	24
	②2019/8/17・8/24		
	③2019/10/2・10/3		
	④2020/1/10・1/11		
	⑤2020/1/29・2/5		
	⑥2020/4/24・4/25		
P2M 実践力養成研修	①2019/7/8	PMAJ (東京都港区東麻布)	12
	②2019/8/7		
	③2019/9/13		
例会	毎月第4金曜(原則)	PMAJ (東京都港区東麻布)	3
関西例会	2019/6/14	大阪生涯学習センター(仮)	3
	2019/7/12		
	2019/9/13		
	2019/10/11		
	2020/2/14		
	2020/3/13		
PM マイスター講座	都度開催	PMAJ (東京都港区東麻布)	8

(注1) 表は PMAJ 主催のイベント、研修を示しています。これらは通常2CPU ポイント/1 時間が付与されます。その他の CPU 取得可能な項目については資格継続学習基準を参照してください。

(注2) 表に記載の情報は変更になる場合があります。PMAJ ホームページの各イベントの開催案内等で確認してください。

## CPU の手引き

2019年5月発行

発行・編集：特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会

Project Management Association of Japan

〒106-0044 東京都港区東麻布一丁目5番2号

TEL：03-6234-0551 FAX：03-6234-0553

<http://www.pmaj.or.jp/> E-mail：admi@pmaj.or.jp

※発行者の許可なく転載、複写を禁ずる

Copyright © 2019 Project Management Association of Japan